

## 第3回つくばみらい市義務教育施設適正配置審議会協議資料

平成 26 年 7 月 24 日

### **6. 新たな小学校の箇所数検討のためのケーススタディ（第 1 段階）**

（1）みらい平地区における新設校の検討のケース設定の考え方	p2
（2）ケース別の絞込み	p4
（3）評価のための条件整理	p10
（4）各ケースの評価	P11
参考 評価にあたって参考となるデータ	p19

# つくばみらい市義務教育施設適正配置基本計画（目次構成案）

## 1. つくばみらい市の義務教育施設における現状把握

- (1) 義務教育施設等の現況把握
- (2) 住民意向の把握
- (3) 将来人口・児童数の推計
- (4) 課題の整理

## 2. つくばみらい市の義務教育施設に関する基本的な考え方

- (1) つくばみらい市の学校教育に関する基本理念
- (2) 義務教育施設に関する基本的な考え方

## 3. 義務教育施設の適正配置に関する基本的な考え方

- (1) 適正配置に関する基本的な考え方

## 4. 既存校の方向性

- (1) 既存校の児童の将来推計
- (2) 既存校の再編の考え方

## 5. みらい平地区における新たな小学校の可能性について

- (1) みらい平地区における児童数の推計
- (2) みらい平地区における小学校の考え方

## 6. 新たな小学校の箇所数検討のためのケーススタディ（第1段階）

- (1) みらい平地区における新設校の検討のケース設定の考え方
- (2) ケース別の絞込み
- (3) 評価のための条件整理
- (4) 各ケースの評価

## 7. 新たな小学校の箇所数検討のためのケーススタディ（第2段階）

- ・既存地区の小学校の再編パターンの検討

## 8. 中学校の適正配置のためのケーススタディ（第3段階）

- ・中学校の再編パターンの検討

第1回会議で検討済み

第2回会議で検討済み

第3回会議検討内容

## 6. 新たな小学校の箇所数検討のためのケーススタディ（第1段階）

### (1) みらい平地区における新設校の検討のケース設定の考え方

みらい平地区における新設校の検討を行うため、みらい平地区の児童数が最も大きくなる平成35年の各小学校、各学年の児童数を基準として検討を行いました。

より、具体的な再編イメージから新設校の検討を行うため、ケース1～3の3つのケースで検討します。

ケース1	ケース2	ケース3
みらい平地区の小学生の一部はみらい平地区隣接小学校に通う (新設校1校)	みらい平地区の小学生の一部はみらい平地区東側周辺の既存の小学校に通う(新設校1校)	みらい平地区の小学生はみらい平の小学校に通う (新設校2校)

ケース1	みらい平地区の小学生の一部はみらい平地区隣接小学校に通う(新設校1校)	
内容	周辺地区とみらい平地区をあわせて編成する案で、みらい平地区に隣接する福岡小、十和小、谷原小、小張小にみらい平地区の小学生が通学すること、みらい平地区の新設校が小学校1校で対応することを前提条件としています。 (みらい平に隣接する既存地区4校の再編とあわせて実施。)	学区範囲図
学区範囲	① (仮称) 陽光台小 ② 小張小 ③ 福岡小 ④ 十和小 ⑤ 谷原小	<p>学区範囲図</p> <p>① (仮称) 陽光台小 ② 小張小 ③ 福岡小 ④ 十和小 ⑤ 谷原小</p> <p>みらい平地区</p>

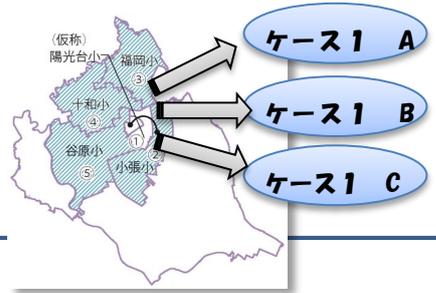
<b>ケース 2</b>		みらい平地区の小学生の一部はみらい平地区東側周辺の既存の小学校に通う（新設校 1 校）	
<b>内容</b>	<p>ケース 1 と同様に周辺地区とみらい平地区をあわせて編成する案ですが、伊奈地区の豊小・板橋小・小張小の既存校の小学校にみらい平地区の小学生が通学することがケース 1 と異なっています。さらに、ケース 1 と同様、みらい平地区の新設校が小学校 1 校で対応することは同様の条件としています。（みらい平地区東側周辺の既存地区 3 校の再編とあわせて実施。）</p>	<b>学区範囲図</b>	
<b>学区範囲</b>	<p>① (仮称) 陽光台小 ② 小張小 ③ 豊小 ④ 板橋小</p>		

<b>ケース 3</b>		みらい平地区の小学生はみらい平の小学校に通う（新設校 2 校）	
<b>内容</b>	<p>みらい平地区の小学生は、みらい平地区の小学校に通学すること、みらい平地区の新設校小学校 2 校で対応することを前提条件としています。</p>	<b>学区範囲図</b>	
<b>学区範囲</b>	<p>① (仮称) 陽光台小 ② (仮称) 富士見ヶ丘小</p>		

※みらい平地区の区割案に応じてA～Cの3パターンを検討

## (2) ケース別の絞り込み

児童数の大字、町丁目別に行った推計を学校区毎に積み上げて、絞り込みの対象となる編成案を作成しました。なお、比較の時期は、みらい平地区の児童数がピークを迎える平成35年時点としています。



### ■ケース1 ⇒ みらい平地区の小学生の一部はみらい平地区隣接小学校に通う案(3案)

ケース1は、周辺地区とみらい平地区をあわせて編成する案で、既存校の小学校にみらい平地区の小学生が通学すること、みらい平地区の新設校が小学校1校で対応することを前提条件としています。(みらい平周辺の既存地区4校の再編とあわせて実施。)

### ケース1ではB案の編成を検討する

- A案・C案は物理的に成立しないため比較対象としない →福岡小は普通教室以外の特別教室を利用しても収容数を超え、現施設での対応は不可能で、校地も狭く増築等もできず、この案は物理的に成立しません。
- 特別教室の利活用によって対応が可能なB案を比較検討案とする →小張小と谷原小において普通教室で不足は出るものの、特別教室の利活用によって対応は可能となります。

### ■新設校1校と北部隣接校の活用案の比較

#### A案 平成35年の児童数の推計

みらい平地区の小学生の一部はみらい平地区隣接小学校に通う案(A案)												
	①陽光台		②小張小		⑤谷原小		④十和小		③福岡小		児童生徒数合計	クラス数合計
	児童数	クラス数										
6歳 小1	141	5	63	2	23	1	33	1	41	2	301	11
7歳 小2	148	5	65	2	22	1	34	1	44	2	313	11
8歳 小3	154	5	65	2	22	1	34	1	47	2	322	11
9歳 小4	162	5	65	2	22	1	35	1	52	2	336	11
10歳 小5	191	6	71	3	24	1	26	1	61	2	373	13
11歳 小6	186	6	52	2	20	1	23	1	48	2	329	12
12歳 中1	145	4	65	2	24	1	18	1	40	1	292	9
13歳 中2	130	4	57	2	16	1	24	1	38	1	265	9
14歳 中3	138	4	52	2	25	1	18	1	35	1	268	9
小学校計	982	32	381	13	133	6	185	6	293	12	1,974	69
中学校計	413	12	174	6	65	3	60	3	113	3	825	27
みらい平地区のみ	982	-	279	-	57	-	108	-	224	-	1,650	-

#### みらい平地区拡大図

Map showing the Miraiheiwa area with school zones and student counts for Case A. The zones are color-coded: pink for zones where additional classrooms can be used, and yellow for zones where additional classrooms are needed. The map includes labels for schools like 十和小 (108人), 小張小 (279人), 福岡小 (224人), 谷原小 (57人), and 陽光台小 (982人).

#### 【学校区(案)】

- ① (仮称) 陽光台小: 陽光台1～4, 紫峰ヶ丘1, 4, 5
- ② 小張小: 小張小+紫峰ヶ丘2, 富士見ヶ丘1, 2
- ③ 福岡小: 福岡小+紫峰ヶ丘3
- ④ 十和小: 十和小+富士見ヶ丘4
- ⑤ 谷原小: 谷原小+富士見ヶ丘3 の組合せとなります。

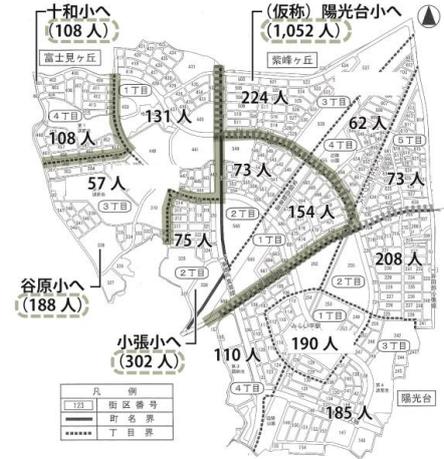
※表中の   色は、普通教室以外も利用すれば可能なことを表す。(ただし現在対応している学校のみに限る。)

※表中の   色は、普通教室以外も利用した場合において収容数を超えることを表す。

**B案** 平成35年の児童数の推計

みらい平地区拡大図

		みらい平地区の小学生の一部はみらい平地区隣接小学校に通う案(B案)											
		①陽光台		②小張小		⑤谷原小		④十和小		③福岡小		児童生徒数合計	クラス数合計
児童数	クラス数	児童数	クラス数	児童数	クラス数	児童数	クラス数	児童数	クラス数	児童数	クラス数		
6歳	小1	147	5	62	2	48	2	33	1	11	1	301	11
7歳	小2	156	5	65	2	47	2	34	1	11	1	313	11
8歳	小3	163	5	68	2	46	2	34	1	11	1	322	11
9歳	小4	173	5	71	3	45	2	35	1	12	1	336	12
10歳	小5	212	7	73	3	48	2	26	1	14	1	373	14
11歳	小6	201	6	65	2	30	1	23	1	10	1	329	11
12歳	中1	158	4	62	2	40	1	18	1	14	1	292	9
13歳	中2	145	4	53	2	31	1	24	1	12	1	265	9
14歳	中3	151	4	49	2	38	1	18	1	12	1	268	9
小学校計		1,052	33	404	14	264	11	185	6	69	6	1,974	70
中学校計		454	12	164	6	109	3	60	3	38	3	825	27
みらい平地区のみ		1,052	-	302	-	188	-	108	-	0	-	1,650	-



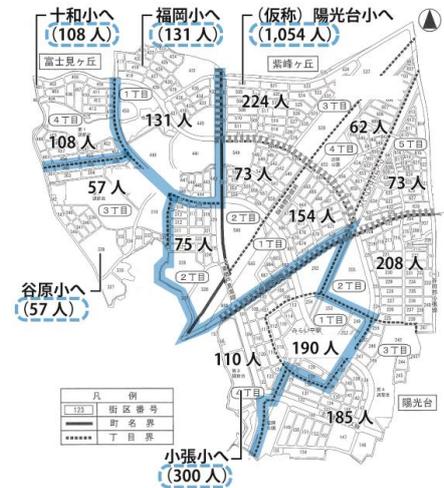
【学校区(案)】

- ① (仮称) 陽光台小：陽光台1～4, 紫峰ヶ丘3, 4, 5
- ② 小張小：小張小+紫峰ヶ丘1, 2, 富士見ヶ丘2
- ③ 福岡小
- ④ 十和小：十和小+富士見ヶ丘4
- ⑤ 谷原小：谷原小+富士見ヶ丘1, 3の組合せとなります。

**C案** 平成35年の児童数の推計

みらい平地区拡大図

		みらい平地区の小学生の一部はみらい平地区隣接小学校に通う案(C案)											
		①陽光台		②小張小		⑤谷原小		④十和小		③福岡小		児童生徒数合計	クラス数合計
児童数	クラス数	児童数	クラス数	児童数	クラス数	児童数	クラス数	児童数	クラス数	児童数	クラス数		
6歳	小1	150	5	59	2	23	1	33	1	36	2	301	11
7歳	小2	160	5	61	2	22	1	34	1	36	2	313	11
8歳	小3	168	5	63	2	22	1	34	1	35	1	322	10
9歳	小4	178	6	66	2	22	1	35	1	35	1	336	11
10歳	小5	222	7	63	2	24	1	26	1	38	2	373	13
11歳	小6	176	6	90	3	20	1	23	1	20	1	329	12
12歳	中1	148	4	72	2	24	1	18	1	30	1	292	9
13歳	中2	141	4	57	2	16	1	24	1	27	1	265	9
14歳	中3	126	4	74	2	25	1	18	1	25	1	268	9
小学校計		1,054	34	402	13	133	6	185	6	200	9	1,974	68
中学校計		415	12	203	6	65	3	60	3	82	3	825	27
みらい平地区のみ		1,054	-	300	-	57	-	108	-	131	-	1,650	-



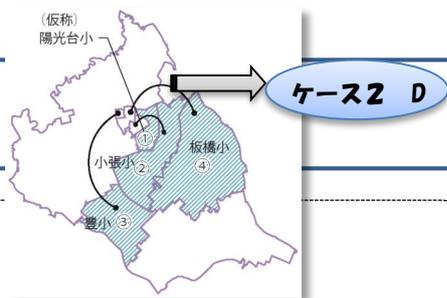
【学校区(案)】

- ① (仮称) 陽光台小：陽光台2, 3, 紫峰ヶ丘1～5, 富士見ヶ丘2
- ② 小張小：小張小+陽光台1, 4
- ③ 福岡小：福岡小+富士見ヶ丘1
- ④ 十和小：十和小+富士見ヶ丘4
- ⑤ 谷原小：谷原小+富士見ヶ丘3の組合せとなります。

※表中の      色は、普通教室以外も利用すれば可能なことを表す。(ただし現在対応している学校のみに限る。)

※表中の      色は、普通教室以外も利用した場合において収容数を越えることを表す。

■ケース2 ⇒ みらい平地区の小学生の一部はみらい平地区  
東側周辺の既存の小学校に通う案(1案)



ケース2については、みらい平地区と伊奈地区の既存3校(小張小・板橋小・豊小)による再編をD案と設定します。小張小・板橋小・豊小の既存校にみらい平地区の小学生の一部が通学する案です。

ケース2ではD案の編成を検討する

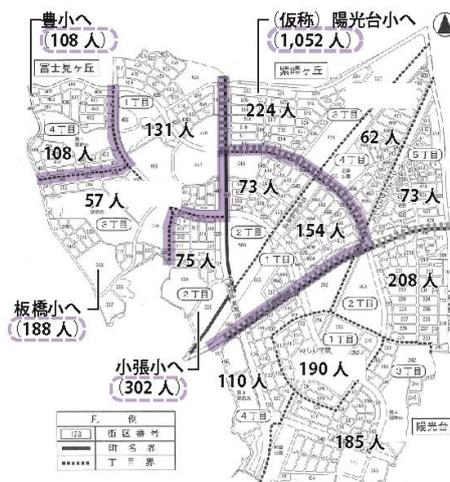
○ケース1-B案に準じたD案を比較検討案とする →みらい平地区から旧伊奈地区の学校へ割り振る区割り設定とし、また、みらい平地区内は、ケース1と比較するために同じ区割りとしています。しかし、(仮称)陽光台小学校から離れた地区の児童は小張小、板橋小、豊小に通学する案となります。

■新設校1校と南部隣接校の活用品

D案 平成35年の児童数の推計

		みらい平地区の小学生の一部はみらい平地区東側周辺の既存の小学校に通う案									
		①陽光台		②小張小		④板橋小		③豊小			
児童数	クラス数	児童数	クラス数	児童数	クラス数	児童数	クラス数	児童生徒数合計	クラス数合計		
6歳	小1	147	5	62	2	88	3	32	1	241	8
7歳	小2	156	5	65	2	87	3	33	1	254	8
8歳	小3	163	5	68	2	87	3	34	1	265	8
9歳	小4	173	5	71	3	87	3	35	1	279	9
10歳	小5	212	7	73	3	86	3	31	1	316	11
11歳	小6	201	6	65	2	57	2	29	1	295	9
12歳	中1	158	4	62	2	72	2	29	1	249	7
13歳	中2	145	4	53	2	93	3	32	1	230	7
14歳	中3	151	4	49	2	64	2	28	1	228	7
小学校計		1,052	33	404	14	492	17	194	6	1,650	53
中学校計		454	12	164	6	229	7	89	3	707	21
みらい平地区のみ		1,052	-	302	-	188	-	108	-	1,650	-

みらい平地区拡大図



【学校区(案)】

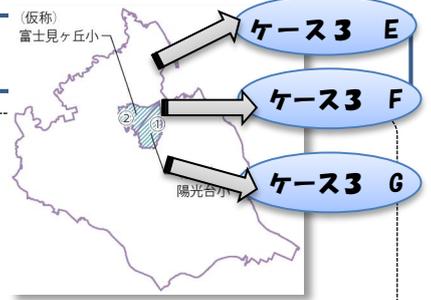
- ① (仮称) 陽光台小：陽光台1～4, 紫峰ヶ丘3, 4, 5
  - ② 小張小：小張小+紫峰ヶ丘1, 2, 富士見ヶ丘2
  - ③ 豊小：豊小+富士見ヶ丘4
  - ④ 板橋小：板橋小+富士見ヶ丘1, 3
- の組合せとなります。

※表中の      色は、普通教室以外も利用すれば可能なことを表す。(ただし現在対応している学校のみに限る。)

※表中の      色は、普通教室以外も利用した場合において収容数を超えることを表す。

※みらい平地区の区割案に応じてE～Gの3パターンを検討

■ケース3 ⇒ みらい平地区の小学生はみらい平の小学校に通う案(3案)



ケース3は、みらい平地区の小学生は、みらい平地区の小学校に通学する案とするため、みらい平地区の新設校小学校2校で対応することを前提条件としています。

学区割りを常磐自動車道で分割（E案）、旧町村に近い道路で分割（F案）、県道で分割（G案）の3案を設定し、検討します。

ケース3ではE案の編成を検討する

○F案はピーク時はバランスが良いが区割りの線が複雑となる→概ね旧町村界で区切る案ですが、線形がやや複雑なため小学校を中心とした地域コミュニティを考えると、あまり望ましくありません。

○G案は県道で分割するが現在の定住している状況を勘案するとあまり望ましくない→現在、紫望ヶ丘地区に居住する児童数も増えていることから、紫望ヶ丘地区から(仮称)陽光台小学校に通う児童はできるだけ多い方が良いので、E案と比較するとあまり望ましくありません。

○地域コミュニティ形成上もバランスの良いE案を比較検討案とする →常磐自動車道という分かり易い地形地物での分割が、地域コミュニティ形成上も有効と思われることから、E案の編成が望ましいと考えられます

■新設校2校でみらい平の児童数を受け入れる案の比較

E案 平成35年の児童数の推計						みらい平地区拡大図	
<b>みらい平地区の小学生はみらい平の小学校に通う案(E案)</b>						(仮称) 富士見ヶ丘小学校▷668人	
		①陽光台 児童数	②富士見ヶ丘 児童数	合計	①陽光台 クラス		
6歳	小1	141	104	245	5	3	
7歳	小2	148	109	257	5	4	
8歳	小3	154	112	266	5	4	
9歳	小4	162	117	279	5	4	
10歳	小5	191	133	324	6	4	
11歳	小6	186	93	279	6	3	
12歳	中1	145	86	231	4	3	
13歳	中2	130	82	212	4	3	
14歳	中3	138	66	204	4	2	
小学校計		982	668	1,650	32	22	
中学校計		413	234	647	12	8	

(仮称) 陽光台小学校▷982人

【学校区(案)】

- ① (仮称) 陽光台小：陽光台1～4，紫峰ヶ丘1，4，5
- ② (仮称) 富士見ヶ丘小：紫峰ヶ丘2，3，富士見ヶ丘1～4の組合せとなります。

※表中の  色は、普通教室以外も利用すれば可能なことを表す。(ただし現在対応している学校のみに限る。)

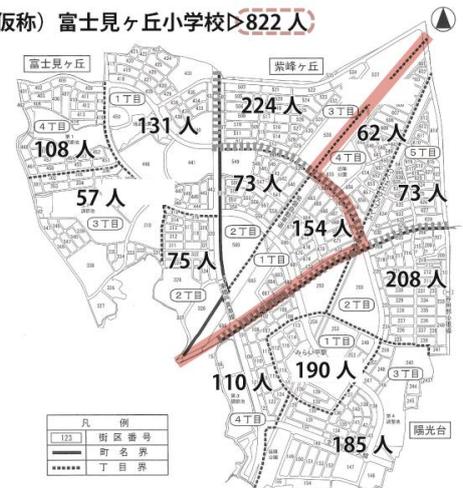
※表中の  色は、普通教室以外も利用した場合において収容数を超えることを表す。

F案 平成35年の児童数の推計

みらい平地区拡大図

		みらい平地区の小学生はみらい平の小学校に通う案(F案)				
		①陽光台	②富士見ヶ丘	合計	①陽光台	②富士見ヶ丘
		児童数	児童数		クラス	クラス
6歳	小1	117	128	245	4	4
7歳	小2	123	134	257	4	4
8歳	小3	127	139	266	4	4
9歳	小4	133	146	279	4	5
10歳	小5	165	159	324	5	5
11歳	小6	163	116	279	5	4
12歳	中1	132	99	231	4	3
13歳	中2	119	93	212	3	3
14歳	中3	128	76	204	4	2
小学校計		828	822	1,650	26	26
中学校計		379	268	647	11	8

(仮称) 富士見ヶ丘小学校▷822人



(仮称) 陽光台小学校▷828人

【学校区(案)】

- ① (仮称) 陽光台小：陽光台1～4，紫峰ヶ丘4，5
- ② (仮称) 富士見ヶ丘小：富士見ヶ丘1～4，紫峰ヶ丘1，2，3の組合せとなります。

G案 平成35年の児童数の推計

みらい平地区拡大図

		みらい平地区の小学生はみらい平の小学校に通う案(G案)				
		①陽光台	②富士見ヶ丘	合計	①陽光台	②富士見ヶ丘
		児童数	児童数		クラス	クラス
6歳	小1	100	145	245	3	5
7歳	小2	104	153	257	3	5
8歳	小3	106	160	266	4	5
9歳	小4	110	169	279	4	5
10歳	小5	132	192	324	4	6
11歳	小6	141	138	279	5	4
12歳	中1	110	121	231	3	4
13歳	中2	92	120	212	3	3
14歳	中3	112	92	204	3	3
小学校計		693	957	1,650	23	30
中学校計		314	333	647	9	10

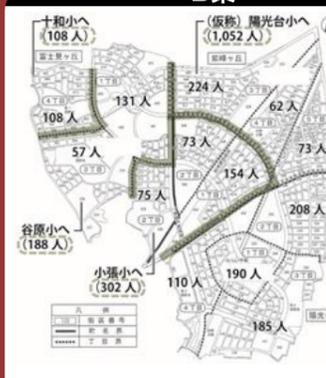
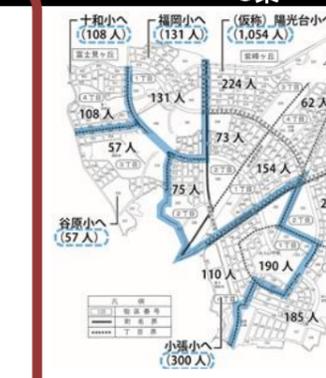
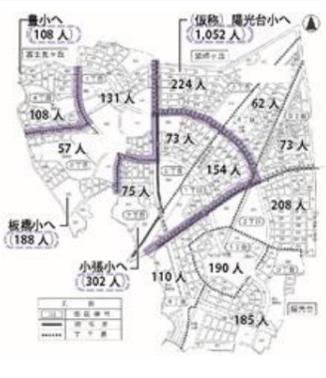
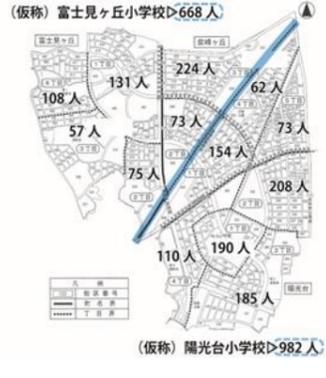
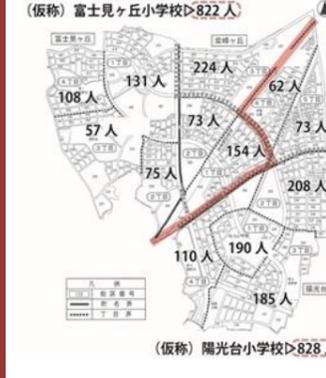
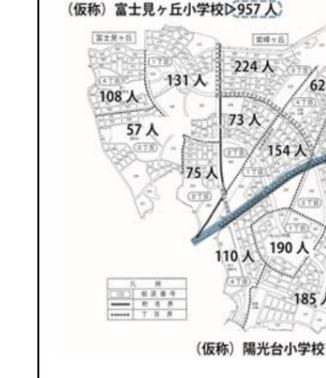
(仮称) 富士見ヶ丘小学校▷957人



(仮称) 陽光台小学校▷693人

【学校区(案)】

- ① (仮称) 陽光台小：陽光台1～4
- ② (仮称) 富士見ヶ丘小：富士見ヶ丘1～4，紫峰ヶ丘1～5の組合せとなります。

			みらい平地区拡大図			みらい平・既存周辺地区
			A案	B案	C案	
ケース 1	みらい平地区に新設校1校【みらい平地区の小学生の一部はみらい平地区隣接小学校に通う案】	<p>○A案・C案は物理的に成立しないため比較対象としない</p> <p>○特別教室の利活用によって対応が可能なB案を比較検討案とする</p>	<p>位置図</p> 	<p>位置図</p> 	<p>位置図</p> 	<p>位置図</p> 
			<p>対象地区</p> <p>①(仮称)陽光台小:陽光台1~4, 紫峰ヶ丘1, 4, 5 ②小張小:小張小+紫峰ヶ丘2, 富士見ヶ丘1, 2 ③福岡小:福岡小+紫峰ヶ丘3/④十和小:十和小+富士見ヶ丘4/⑤谷原小:谷原小+富士見ヶ丘3</p>	<p>対象地区</p> <p>①(仮称)陽光台小:陽光台1~4, 紫峰ヶ丘3, 4, 5 ②小張小:小張小+紫峰ヶ丘1, 2, 富士見ヶ丘2 ③福岡小/④十和小:十和小+富士見ヶ丘4 ⑤谷原小:谷原小+富士見ヶ丘1, 3</p>	<p>対象地区</p> <p>①(仮称)陽光台小:陽光台2, 3, 紫峰ヶ丘1~5, 富士見ヶ丘2/②小張小:小張小+陽光台1, 4 /③福岡小:福岡小+富士見ヶ丘1 / ④十和小:十和小+富士見ヶ丘4/⑤谷原小:谷原小+富士見ヶ丘3</p>	
ケース 2	みらい平地区に新設校1校【みらい平地区の小学生の一部はみらい平地区東側周辺の既存の小学校に通う案】	○ケース1-B案に準じたD案を比較検討案とする	<p>位置図</p> 	—	—	<p>位置図</p> 
			<p>対象地区</p> <p>①(仮称)陽光台小:陽光台1~4, 紫峰ヶ丘3, 4, 5/②小張小:小張小+紫峰ヶ丘1, 2, 富士見ヶ丘2/③豊小:豊小+富士見ヶ丘4/④板橋小:板橋小+富士見ヶ丘1, 3</p>	—	—	
ケース 3	みらい平地区に新設校2校【みらい平地区の小学生はみらい平の小学校に通う案】	<p>○F案はピーク時はバランスが良いが区割りの線が複雑となる</p> <p>○G案は県道で分割するが現在の定住している状況を勘案するとあまり望ましくない</p> <p>○地域コミュニティ形成上もバランスの良いE案を比較検討案とする</p>	<p>位置図</p> 	<p>位置図</p> 	<p>位置図</p> 	<p>位置図</p> 
			<p>対象地区</p> <p>①(仮称)陽光台小:陽光台1~4, 紫峰ヶ丘1, 4, 5 ②(仮称)富士見ヶ丘小:紫峰ヶ丘2, 3, 富士見ヶ丘1~4</p>	<p>対象地区</p> <p>①(仮称)陽光台小:陽光台1~4, 紫峰ヶ丘4, 5 ②(仮称)富士見ヶ丘小:富士見ヶ丘1~4, 紫峰ヶ丘1, 2, 3</p>	<p>対象地区</p> <p>①(仮称)陽光台小:陽光台1~4 ②(仮称)富士見ヶ丘小:富士見ヶ丘1~4, 紫峰ヶ丘1~5</p>	

### (3) 評価のための条件整理

「新たな小学校の箇所数検討のためのケーススタディ（第1段階）」において、「義務教育施設の適正配置に関する基本的な考え方」を踏まえ、下記のような評価視点により検討を行いました。

#### 視点 i … 教育環境はどうか

---

- ・適正配置審議会の答申を受けると、理想的な学校規模は「クラス替えができる1学年2学級（計12学級）以上」（但し、現状では当初より単学級に対応した小学校がある）であることから、これらを踏まえた学校の適正な規模はどうかという点が評価のポイントとなります。
- ・学校によっては、校地面積が狭く、6クラスを超える児童数の受入が難しくなっており、プレハブなどの可能性なども考慮して評価する必要があります。
- ・みらい平地区の児童全員が新設校に通学出来ることがスクールバス説明会の約束であり、その対応も踏まえながら教育環境の平等性についても考慮して評価する必要があります。
- ・安全に児童が通学できるよう、通学距離の観点も考慮して評価する必要があります。

#### 視点 ii … 住民意向はどうか

---

- ・教育環境の整備に対する住民意向も考慮して評価する必要があります。

#### 視点 iii … 地域コミュニティはどうか

---

- ・学校区は地域コミュニティを形成する上で重要な要素であることから、小学校等を中心とした地域との係わりはどうかという点も考慮して評価する必要があります。

#### 視点 iv … 財政面はどうか

---

- ・各々のランニングコスト、建設コストなども考慮して評価する必要があります。

#### (4) 各ケースの評価

### ①ケース1 みらい平地区の小学生の一部は既存の小学校に通う（新設校：小学校1校）

ケース1は、みらい平地区の小学生が既存地区の小学校に通学すること、みらい平地区の新設校1校で対応することを前提条件としています。（既存地区3校の再編とあわせて実施。福岡小はみらい平地区からは通学しない案です。）

#### ケース1 B案の編成

##### ■学校区図のイメージ



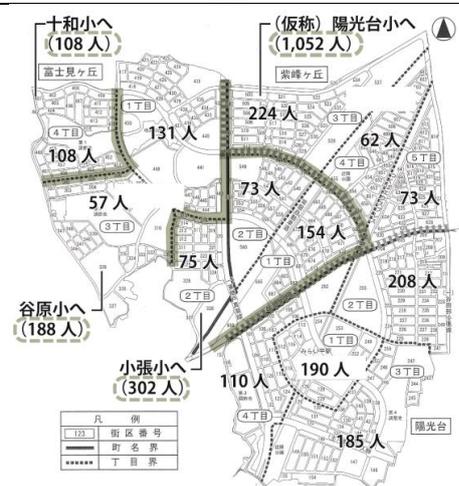
- ①：陽光台1～4丁目，紫峰ヶ丘3・4・5丁目
- ②：小張小+紫峰ヶ丘1・2丁目，富士見ヶ丘2丁目
- ③：福岡小（現在の福岡小学校区の児童が通う）
- ④：十和小+富士見ヶ丘4丁目
- ⑤：谷原小+富士見ヶ丘1・3丁目

#### 平成35年時の児童数の状況(再掲)

##### ■みらい平地区の児童数の状況（B案）

	みらい平地区の小学生の一部はみらい平地区隣接小学校に通う案(B案)											
	①陽光台		②小張小		⑤谷原小		④十和小		③福岡小		児童生徒数合計	クラス数合計
	児童数	クラス数	児童数	クラス数	児童数	クラス数	児童数	クラス数	児童数	クラス数		
6歳 小1	147	5	62	2	48	2	33	1	11	1	301	11
7歳 小2	156	5	65	2	47	2	34	1	11	1	313	11
8歳 小3	163	5	68	2	46	2	34	1	11	1	322	11
9歳 小4	173	5	71	3	45	2	35	1	12	1	336	12
10歳 小5	212	7	73	3	48	2	26	1	14	1	373	14
11歳 小6	201	6	65	2	30	1	23	1	10	1	329	11
12歳 中1	158	4	62	2	40	1	18	1	14	1	292	9
13歳 中2	145	4	53	2	31	1	24	1	12	1	265	9
14歳 中3	151	4	49	2	38	1	18	1	12	1	268	9
小学校計	1,052	33	404	14	264	11	185	6	69	6	1,974	70
中学校計	454	12	164	6	109	3	60	3	38	3	825	27
みらい平地区のみ	1,052	-	302	-	188	-	108	-	0	-	1,650	-

##### ■みらい平地区区割図



※表中の   色は、普通教室以外も利用すれば可能なことを表す。（ただし現在対応している学校のみに限る。）

※表中の   色は、普通教室以外も利用した場合において収容数を超えることを表す。

【評価】

評価視点	評価内容	
視点 i 教育環境	【プラスの面】	
	既存小学校の児童数減少を緩和することができる。	・既存地区から通う児童数は減少しているため、みらい平地区の児童が通うことにより、 <b>既存小学校の児童数減少の緩和</b> につながります。
	【マイナスの面】	
	(仮称) 陽光台小学校に通えない児童が出る。	・平成 35 年では、 <b>みらい平地区の約 1/3 の児童が既存校に通う</b> こととなります。 ・みらい平地区の児童全員が新設校に通学出来ることが <b>スクールバス説明会の約束</b> となっており、既存校への通学への <b>理解が難しい面</b> があります。 ・みらい平地区の一部の地区だけが新設校の学区となつて一部の児童が再び既存校へ戻すのは <b>不公平感</b> が生じます。
	(仮称) 陽光台小では一部プレハブ校舎での対応が必要となる。	・谷原小において普通教室で不足は出るものの、特別教室の利活用で対応は可能です。しかし、(仮称) 陽光台小では一部 <b>プレハブ校舎での対応が必要</b> になります。
	特別教室の確保が制約されることとなる。	・小規模校で配分するため、 <b>長期間にわたり特別教室の確保が制約</b> され、教育環境上も問題があります。
	通学距離が長くなる。	・各学校区の <b>距離</b> (各学区範囲の重心位置を基準に、当該学区が何km圏内に位置するか) がケース 3 と比べ <b>長くなる学校区</b> が生まれます。
適正配置審議会答申の目指す理想的な学校規模を満たさない状況が続く。	・小規模校を活用していくこととなるため、 <b>適正配置審議会答申の目指す理想的な学校規模(1 学年 2 学級以上) に満たさない学校を長期間維持</b> していくこととなります。	
視点 ii 住民意向	【プラスの面】	
	「複式学級や1クラス 10 人以下でなければ存続すべき(42.0%)」の意見が多い。 ※p19 参照	・アンケート結果からは、 <b>既存小学校の存続の希望が多かった</b> ことから、 <b>市全体での意見を尊重</b> した検討案となります。
	「周辺の小学校を合わせて編成(2 校目は開校しない)(63.6%)」の意見が最も多い。 ※p21 参照	・周辺の <b>既存校との編成による案</b> であることから、 <b>市全体での意見を尊重</b> した検討案となります。
	【マイナスの面】	
・みらい平地区の未就学児の保護者は、「2 校目は開校すべき」の意見が最も多い。 ※p22 参照	・これから小学校に通わせる世代となるみらい平地区の <b>未就学児の保護者</b> では、 <b>2 校目の小学校を望む割合が 50%以上</b> と多くなっていますが、これらの意見の反映の点では <b>マイナス</b> となります。	
視点 iii 地域 コミュニティ	【プラスの面】	
	既存地区との交流が促進される。	・みらい平地区の児童が既存地区の児童と交流することから、 <b>既存地区との交流の促進</b> につながります。
【マイナスの面】		
学区割りが複雑で、コミュニティ形成も影響が大きい。	・みらい平地区の約半分を既存校に再び学区割りする案のため、 <b>学区割りが複雑</b> となり、 <b>地域コミュニティの形成への影響も大きくなり</b> ます。	
視点 iv 財政面	【プラスの面】	
	建設コストは、陽光台小プレハブの費用で済む。	・建設コストは、陽光台小プレハブ費用に <b>計 2.5 千万円</b> となります。
【マイナスの面】		
ランニングコストは、陽光台小の維持管理費用とスクールバスが掛かる。	・新設校管理費(3 千万円) + スクールバス(既存校 3 校のみらい平からの通学児童を対象、累計 240 台 [15 年間] × 0.5 千万円) = <b>12.3 億円</b> となります。	

## ②ケース2 みらい平地区の小学生の一部は既存の小学校に通う（新設校：小学校1校）

ケース2は、みらい平地区の小学生が既存地区の小学校に通学すること、みらい平地区の新設校1校で対応することを前提条件としています。（既存地区3校の再編とあわせて実施）

### ケース2 D案の編成

#### ■学校区図のイメージ



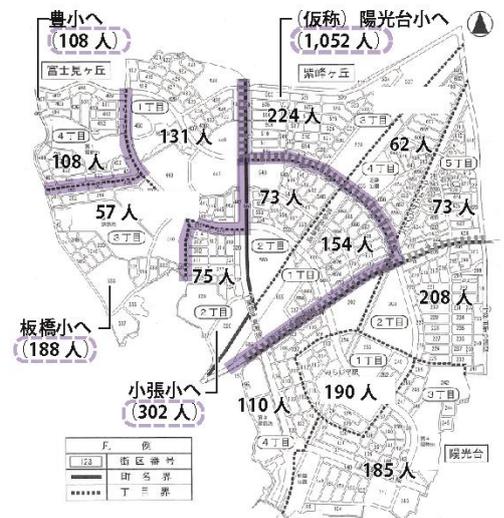
- ①：陽光台1～4，紫峰ヶ丘3，4，5
- ②：小張小+紫峰ヶ丘1，2，富士見ヶ丘2
- ③：豊小+富士見ヶ丘4
- ④：板橋小+富士見ヶ丘1，3

### 平成35年時の児童数の状況(再掲)

#### ■みらい平地区の児童数の状況（B案）

		みらい平地区の小学生の一部はみらい平地区東側周辺の既存の小学校に通う案									
		①陽光台		②小張小		④板橋小		③豊小		児童生徒数合計	クラス数合計
年齢	学年	児童数	クラス数	児童数	クラス数	児童数	クラス数	児童数	クラス数		
6歳	小1	147	5	62	2	88	3	32	1	241	8
7歳	小2	156	5	65	2	87	3	33	1	254	8
8歳	小3	163	5	68	2	87	3	34	1	265	8
9歳	小4	173	5	71	3	87	3	35	1	279	9
10歳	小5	212	7	73	3	86	3	31	1	316	11
11歳	小6	201	6	65	2	57	2	29	1	295	9
12歳	中1	158	4	62	2	72	2	29	1	249	7
13歳	中2	145	4	53	2	93	3	32	1	230	7
14歳	中3	151	4	49	2	64	2	28	1	228	7
小学校計		1,052	33	404	14	492	17	194	6	1,650	53
中学校計		454	12	164	6	229	7	89	3	707	21
みらい平地区のみ		1,052	-	302	-	188	-	108	-	1,650	-

#### ■みらい平地区区割図



※表中の      色は、普通教室以外も利用すれば可能なことを表す。（ただし現在対応している学校のみに限る。）

※表中の      色は、普通教室以外も利用した場合において収容数を超えることを表す。

【評価】

評価視点	評価内容	
視点 i 教育環境	【プラスの面】	
	既存小学校の児童数減少を緩和することができる。	・既存地区から通う児童数は減少しているため、みらい平地区の児童が通うことにより、 <b>既存小学校の児童数減少の緩和</b> につながります。
	【マイナスの面】	
	(仮称) 陽光台小学校に通えない児童が出る。	・平成 35 年では、 <b>みらい平地区の約 1/3 の児童が既校に通う</b> こととなります。 ・みらい平地区の児童全員が新設校に通学出来ることが <b>スクールバス説明会の約束</b> となっており、既存校への通学への <b>理解が難しい</b> 面があります。 ・みらい平地区の一部の地区だけが新設校の学区となつて一部の児童が再び既存校へ戻すのは <b>不公平感</b> が生じます。
	(仮称) 陽光台小では一部プレハブ校舎での対応が必要となる。	・190 人弱の児童数が板橋小に通うこととなりますが、特別教室の利活用で対応は可能です。しかし、(仮称) 陽光台小では一部 <b>プレハブ校舎での対応が必要</b> になります。
	特別教室の確保が制約されることとなる。	・ <b>一時的に特別教室の確保が制約</b> されることとなり、教育環境上も問題があります。
	通学距離が長くなる。	・各学区の <b>距離</b> (各学区範囲の重心位置を基準に、当該学区が何km圏内に位置するか)がケース 3 と比べ <b>長くなる学区</b> が生まれます。
適正配置審議会答申の目指す理想的な学校規模を満たさない状況が続く。	・小規模校を活用していくこととなるため、 <b>適正配置審議会答申の目指す理想的な学校規模(1 学年 2 学級以上)に満たさない学校を長期間維持</b> していくこととなります。	
視点 ii 住民意向	【プラスの面】	
	「複式学級や1クラス10人以下でなければ存続すべき(42.0%)」の意見が多い。 ※p19 参照	・アンケート結果からは、 <b>既存小学校の存続の希望が多かった</b> ことから、 <b>市全体での意見を尊重</b> した検討案となります。
	「周辺の小学校を合わせて編成(2 校目は開校しない)(63.6%)」の意見が最も多い。 ※p21 参照	・周辺の <b>既存校との編成による案</b> であることから、 <b>市全体での意見を尊重</b> した検討案となります。
	【マイナスの面】	
・みらい平地区の未就学児の保護者は、「2 校目は開校すべき」の意見が最も多い。 ※p22 参照	・これから小学校に通わせる世代となるみらい平地区の <b>未就学児の保護者</b> では、 <b>2 校目の小学校を望む割合が 50%以上</b> と多くなっていますが、これらの意見の反映の点では <b>マイナス</b> となります。	
視点 iii 地域 コミュニティ	【プラスの面】	
	既存地区との交流が促進される。	・みらい平地区の児童が既存地区の児童と交流することから、 <b>既存地区との交流の促進</b> につながります。
【マイナスの面】		
学区割りが複雑で、コミュニティ形成も影響が大きい。	・みらい平地区の約半分を既存校に再び学区割りする案のため、 <b>学区割りが複雑</b> となり、 <b>地域コミュニティの形成への影響も大きくなり</b> ます。	
視点 iv 財政面	【プラスの面】	
	建設コストは、陽光台小プレハブの費用で済む。	・建設コストは、陽光台小プレハブ費用に <b>計 2.5 千万円</b> となります。
【マイナスの面】		
ランニングコストは、陽光台小の維持管理費用とスクールバスが掛かる。	・新設校管理費(3 千万円) + スクールバス(既存校 3 校のみらい平からの通学児童を対象、累計 240 台 [15 年間] × 0.5 千万円) = <b>12.3 億円</b> となります。	

### ③ケース3 みらい平地区の小学生はみらい平の小学校に通う（新設校：小学校2校）

ケース3は、みらい平地区の小学生はみらい平地区の小学校に通学し、既存地区の小学生は既存地区の小学校に通学すること、みらい平地区の新設校2校で対応することを前提条件としています。

#### ケース3 E案の編成

##### ■学校区図のイメージ

②(仮称)  
富士見ヶ丘小

①：陽光台1～4丁目、紫峰ヶ丘1・4・5丁目  
②：紫峰ヶ丘2・3丁目、富士見ヶ丘1～4丁目

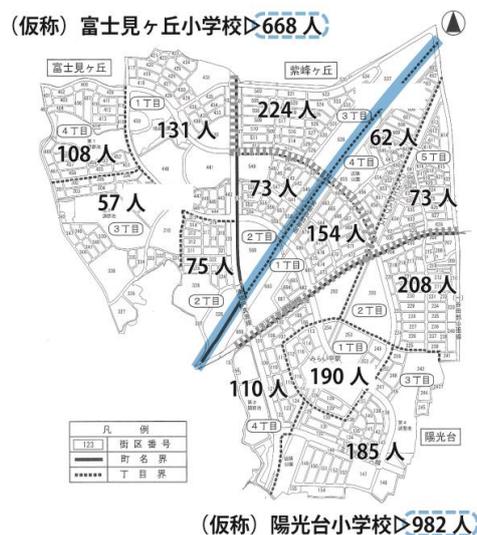


#### 平成35年時の児童数の状況(再掲)

##### ■みらい平地区の児童数の状況（E案）

		みらい平地区の小学生はみらい平の 小学校に通う案(E案)				
		①陽光台 児童数	②富士見ヶ丘 児童数	合計	①陽光台 クラス	②富士見ヶ丘 クラス
6歳	小1	141	104	245	5	3
7歳	小2	148	109	257	5	4
8歳	小3	154	112	266	5	4
9歳	小4	162	117	279	5	4
10歳	小5	191	133	324	6	4
11歳	小6	186	93	279	6	3
12歳	中1	145	86	231	4	3
13歳	中2	130	82	212	4	3
14歳	中3	138	66	204	4	2
小学校計		982	668	1,650	32	22
中学校計		413	234	647	12	8

##### ■みらい平地区区割図



※表中の      色は、普通教室以外も利用すれば可能なことを表す。(ただし現在対応している学校のみに限る。)

※表中の      色は、普通教室以外も利用した場合において収容数を超えることを表す。

【評価】

評価視点	評価内容	
視点Ⅰ 教育環境	<b>【プラスの面】</b>	
	みらい平地区の児童が全員みらい平地区の小学校に通える。	・みらい平地区の児童全員が新設校に通学出来ることがスクールバス説明会の約束となっており、その <b>約束を満たす</b> ことになります。
	プレハブ校舎での対応が不要となる。	・2校目が出来るまでの暫定措置としてプレハブ校舎での対応が必要となることも想定されますが、それを除けば <b>プレハブ校舎での対応が不要</b> となります。
	特別教室の確保が制約されなくなることとなる。	・(仮称) 陽光台小学校を除けば、特別教室を確保して教室にする必要がなくなるので、 <b>教育環境上もプラス面</b> があります。
	通学距離が短くなる。	・各学校区の <b>距離</b> (各学区範囲の重心位置を基準に、当該学区が何km圏内に位置するか)がケース1・2と比べ <b>短くなる学校区</b> となります。
	適正配置審議会答申の目指す理想的な学校規模に向けて進めることができる。	・既存小学校の適正規模化に向けて新設2校を活用することができるので、 <b>適正配置審議会答申の目指す理想的な学校規模(1学年2学級以上)となる学校を増やしていくことができます。</b>
	<b>【マイナスの面】</b>	
既存小学校の児童数減少が進む。	・既存小学校に行っていたみらい平地区の児童が新設の小学校に通うため、既存小学校の <b>児童数減少が進む</b> ことが懸念されます。	
視点Ⅱ 住民意向	<b>【プラスの面】</b>	
	・みらい平地区の未就学児の保護者は、「2校目は開校すべき」の意見が最も多い。 ※p22 参照	・これから小学校に通わせる世代となるみらい平地区の未就学児の保護者では、 <b>2校目の小学校を望む割合が50%以上</b> と多くなっています。
	<b>【マイナスの面】</b>	
「複式学級や1クラス10人以下でなければ存続すべき(42.0%)」の意見が多い。 ※p19 参照	・アンケート結果からは、 <b>既存小学校の存続の希望が多かった</b> ことから、小規模校の存続の視点では <b>マイナス</b> となります。	
「周辺の小学校を合わせて編成(2校目は開校しない)(63.6%)」の意見が最も多い。 ※p21 参照	・ <b>周辺の既存校との編成による案でないため</b> 、これらの意見の反映については <b>マイナス</b> となります。	
視点Ⅲ 地域コミュニティ	<b>【プラスの面】</b>	
	みらい平地区のコミュニティ形成は進む。	・みらい平地区の <b>学区割りが明快</b> なので、地域コミュニティの形成上の問題点は解消出来ます。また、既存地区も既存校単位の再編なので従来の <b>地域コミュニティは維持出来る</b> と考えられます。
<b>【マイナスの面】</b>		
既存地区との交流の点ではマイナス。	・みらい平地区の児童が既存地区の児童と <b>交流のない校区案</b> となります。	
視点Ⅳ 財政面	<b>【プラスの面】</b>	
	ランニングコストは維持管理費用と陽光台小プレハブの費用で済む。	・新設校管理費(3千万円)＋陽光台小プレハブ(2.5千万円×3棟([平成30年])＝ <b>1億500万円</b> となります。 ※この場合のプレハブ校舎は2校目が出来るまでの暫定措置としての用途を想定
<b>【マイナスの面】</b>		
建設コストは、富士見が丘小の建設費用が掛かる。	・建設コストは、新設校 <b>60億円</b> となります。	

#### ④視点別に見た各ケースの評価

ケース1－B案、ケース2－D案、ケース3－E案の3案について、それぞれ4つの視点（視点i～視点iv）別に比較検討を行いました。

##### 視点 i 教育環境



クラス数や特別教室数、プレハブ校舎等による対応期間など児童の教育環境の面や、スクールバス実施における約束事などを勘案すると、**ケース3**が最も妥当です。

- ・理想的な学校規模は「クラス替えができる1学年2学級（計12学級）以上」とした適正配置審議会答申の考え方を踏まえた教育環境を目指すのに最も有効なパターンは、**ケース3**です。
- ・スクールバス説明会の約束ごとである「みらい平地区の児童全員が新設校に通学出来ること」を守れるのは、**ケース3**です。
- ・特別教室の普通教室への転用がなく、教育環境上も優れているパターンは、**ケース3**です。
- ・プレハブ校舎等による対応する期間が短くて済むパターンは、2校目ができるまでの間だけプレハブ対応が必要な**ケース3**です。

##### 視点 ii 住民意見



単純に意見の多さで見れば**ケース1・2**ですが、転入住民の潜在的ニーズや適正配置審議会における答申内容への対応などを勘案すると、**ケース3**が妥当です。

- ・アンケートで回答の多かった「周辺の小学校を合わせて編成(2校目は開校しない)」の意見を満たすパターンは、**ケース1・2**です。しかし、周辺の小学校を合わせた編成は**ケース3**においても可能であり、将来的に多様な編成の可能性を持っているのは**ケース3**です。
- ・アンケートで回答の多かった「複式学級や1クラス10人以下でなければ存続すること」を満たすパターンは、**ケース1・2**です。しかし、このケースでは、適正配置審議会答申の示す方向性とは異なり、クラス替えのできない小規模校を維持することに繋がります。
- ・みらい平地区の未就学児の保護者など、これから小学校に通わせたいと考えているニーズを満たすパターンは、**ケース3**となります。

##### 視点 iii 地域コミュニティ



新住民が多く、住民同士の交流も浅いみらい平地区においては、将来のまちづくりの観点から見ても、コミュニティ形成が重要なポイントです。このことから、校区割りが複雑とならない**ケース3**が最も妥当であると考えられます。

- ・学校区は地域コミュニティを形成する上で重要な要素であることから、学校区割りが複雑でないことが望ましく、これらを満たすパターンは、**ケース3**となります。
- ・みらい平地区の児童と既存地区の児童との交流を図ることができるのは、**ケース1・2**です。しかし、将来的な視点で見れば、**ケース3**でも、周辺の小学校を合わせて編成することは可能です。

##### 視点 iv 財政面



2校目を造らない**ケース1・2**の方が一時的なコストは少なくて済むメリットはありますが、スクールバスなどの対応もなく、市全体の適正配置が進む**ケース3**も、長期的なランニングコストが少ないというメリットがあります。

- ・一時的なコストで見ると（仮称）富士見ヶ丘小の建設費用が掛からない**ケース1・2**の方がコストは少なくて済みます。しかし、長期的に見ると、ランニングコストはかさんでいくため、**ケース1・2**と**ケース3**の差は少なくなっていくます。

## ⑤評価のまとめ

①～④までの評価内容を踏まえ、総合的に勘案し、評価のまとめを行いました。



「みらい」を担う子どもたちの教育環境を最優先とすることが大切だと考えます。

- クラス数や特別教室数、プレハブ校舎等による対応期間など、児童の教育環境の面から見ると、今後も増加が見込まれるみらい平地区においては、(仮称)陽光台小学校1校で対応するには、様々な困難が予想されます。
- 適正配置審議会による答申に沿う形で教育環境を整えていくことは市の責務であることから、(仮称)陽光台小学校1校での対応を行うことは、あまり望ましいことではないと考えます。
- 現在みらい平地区から通学している児童の保護者に対して、スクールバス導入説明会において「みらい平地区の児童が新設校に通学出来ること」を約束していることから、これらに配慮する必要があります。



将来の潜在的ニーズを捉え、転入されてくる新住民を受け入れる環境を整えることが大切だと考えます。

- みらい平地区に居住する未就学児を持つ保護者の意見は、将来転入してくるであろう新住民の潜在的ニーズに大きく及ぼすものと考えられます。
- 転入されてきた新住民の方々が地域に溶け込みやすい環境づくりを進める上でも、みらい平地区では、地域コミュニティの形成を考慮した学区が編成できることを重視して考える必要があります。
- 「伊奈・谷和原丘陵部一体型特定土地地区画整理事業」の土地利用計画では、同地区内に教育施設用地として3ヶ所配置されています。その土地利用計画の説明を受けて皆さんが住まわれています。

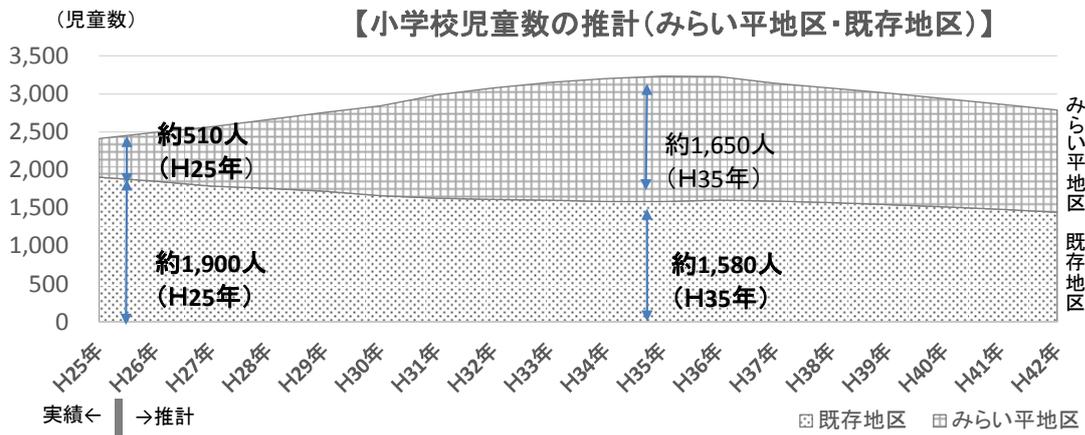


維持管理に掛かる費用や学校適正規模化への対応など、長期的な視点でコストを考える必要があります。

- (仮称)陽光台小学校1校だけの対応で考えると、隣接する既存小学校を活用せざるを得ない状況は、スクールバス運用に掛かる費用など長期的にランニングコストがかさむことが想定されます。
- 第2ステップ以降で検討することとなる既存地区の適正配置を考える上でも、(仮称)陽光台小学校1校だけの対応で考えた場合、小規模校を長期間活用する状況が想定され、結果として学校の適正規模化への対応に時間がかかってしまう可能性もあります。

(補足)

現在、つくばみらい市の児童数は2,400人程度(平成25年)ですが、平成35年のピーク時には、既存地区に約1,580人、みらい平地区に約1,650人となることが想定されています。みらい平地区の児童数は、ピーク時には既存地区にいる児童と同程度の規模となることを見込まれていることとなります。このような状況も勘案しつつ、妥当だと考えられるケースを検討しました。



**参考 評価にあたって参考となるデータ**

**概算事業費の考え方**

大項目	項目	事業費等
建設コスト	新設	小学校 約 60 億円/校
	プレハブ教室建設費	1 棟 (2 教室, 2 階建) 当たり 2.5 千万円
ランニングコスト	管理費	3 千万円/校 (普通教室 12 教室)
	スクールバス委託費	500 万円/台 (1 台当たり 23 人を想定。存続校は徒歩通学。)

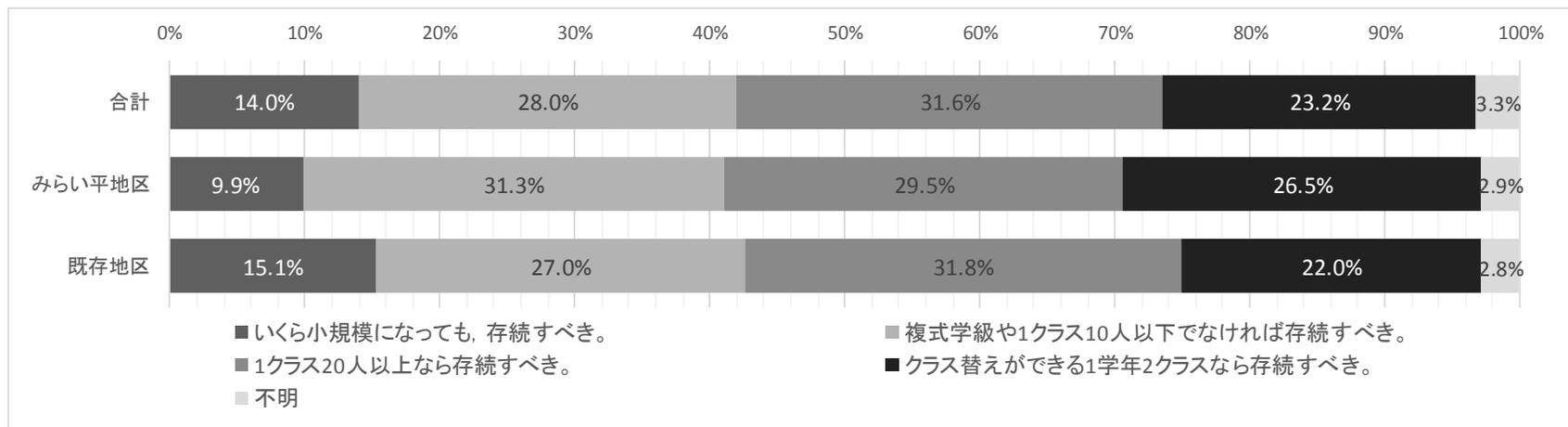
**評価項目に入れたアンケート結果 (「ii 住民意向」) について**

【設問 1】あなたは、小規模校の存続について、どのようにお考えですか。(○はひとつ)

【回答数】全回答者 (=小学生保護者+未就学児保護者+一般市民)

2つの回答を合わせて、既存小学校の存続を希望する意見としてまとめると、42.0%を占めています。

項目名	合計(みらい平地区+既存地区)		みらい平地区		既存地区		小張小		谷井田小		豊小		三島小		板橋小		東小		谷原小		十和小		福岡小		小絹小		不明	
	票数	%	票数	%	票数	%	票数	%	票数	%	票数	%	票数	%	票数	%	票数	%	票数	%	票数	%	票数	%	票数	%	票数	%
1 いくら小規模になっても、存続すべき。	477	14.0%	79	9.9%	394	15.1%	28	15.6%	54	11.9%	29	17.4%	27	22.3%	76	15.1%	32	37.6%	27	15.7%	26	27.1%	25	22.3%	70	10.3%	4	12.1%
2 複式学級や1クラス10人以下でなければ存続すべき。	953	28.0%	250	31.3%	702	27.0%	59	32.8%	109	24.0%	63	37.7%	49	40.5%	116	23.0%	22	25.9%	54	31.4%	28	29.2%	34	30.4%	168	24.7%	1	3.0%
3 1クラス20人以上なら存続すべき。	1,074	31.6%	236	29.5%	829	31.8%	51	28.3%	144	31.7%	55	32.9%	26	21.5%	178	35.3%	21	24.7%	61	35.5%	26	27.1%	30	26.8%	237	34.9%	9	27.3%
4 クラス替えができる1学年2クラスなら存続すべき。	789	23.2%	212	26.5%	573	22.0%	39	21.7%	134	29.5%	19	11.4%	14	11.6%	120	23.8%	8	9.4%	25	14.5%	13	13.5%	20	17.9%	181	26.6%	4	12.1%
不明	111	3.3%	23	2.9%	73	2.8%	3	1.7%	13	2.9%	1	0.6%	5	4.1%	14	2.8%	2	2.4%	5	2.9%	3	3.1%	3	2.7%	24	3.5%	15	45.5%
合計	3,404	100%	800	100%	2,604	100%	180	100%	454	100%	167	100%	121	100%	504	100%	85	100%	172	100%	96	100%	112	100%	680	100%	33	100%



○全回答者の内訳

【回答数】小学生保護者

項目名	合計(みらい平地区+既存地区)		みらい平地区		既存地区																不明							
	票数	%	票数	%	小張小		谷井田小		豊小		三島小		板橋小		東小		谷原小		十和小		福岡小		小絹小		票数	%		
					票数	%	票数	%	票数	%	票数	%	票数	%	票数	%	票数	%	票数	%	票数	%	票数	%				
1 いくら小規模になっても、存続すべき。	247	15.9%	39	12.4%	205	16.7%	15	17.9%	18	9.9%	12	15.8%	10	23.3%	35	14.1%	14	41.2%	18	22.8%	21	37.5%	16	32.7%	46	12.2%	3	23.1%
2 複式学級や1クラス10人以下でなければ存続すべき。	500	32.2%	114	36.3%	386	31.5%	34	40.5%	55	30.4%	39	51.3%	22	51.2%	63	25.3%	13	38.2%	25	31.6%	16	28.6%	17	34.7%	102	27.1%	0	0.0%
3 1クラス20人以上なら存続すべき。	426	27.4%	92	29.3%	333	27.1%	14	16.7%	47	26.0%	19	25.0%	4	9.3%	79	31.7%	5	14.7%	26	32.9%	12	21.4%	8	16.3%	119	31.6%	1	7.7%
4 クラス替えができる1学年2クラスなら存続すべき。	321	20.7%	62	19.7%	259	21.1%	20	23.8%	55	30.4%	6	7.9%	4	9.3%	64	25.7%	2	5.9%	6	7.6%	4	7.1%	6	12.2%	92	24.5%	0	0.0%
不明	60	3.9%	7	2.2%	44	3.6%	1	1.2%	6	3.3%	0	0.0%	3	7.0%	8	3.2%	0	0.0%	4	5.1%	3	5.4%	2	4.1%	17	4.5%	9	69.2%
合計	1,554	100%	314	100%	1,227	100%	84	100%	181	100%	76	100%	43	100%	249	100%	34	100%	79	100%	56	100%	49	100%	376	100%	13	100%

【回答数】未就学児保護者

項目名	合計(みらい平地区+既存地区)		みらい平地区		既存地区																不明							
	票数	%	票数	%	小張小		谷井田小		豊小		三島小		板橋小		東小		谷原小		十和小		福岡小		小絹小		票数	%		
					票数	%	票数	%	票数	%	票数	%	票数	%	票数	%	票数	%	票数	%	票数	%	票数	%				
1 いくら小規模になっても、存続すべき。	83	11.1%	33	8.7%	50	4.1%	3	12.0%	8	17.8%	1	4.5%	4	40.0%	6	12.0%	6	42.9%	4	10.8%	2	13.3%	2	6.5%	14	12.3%	0	0.0%
2 複式学級や1クラス10人以下でなければ存続すべき。	223	29.9%	104	27.5%	118	9.6%	11	44.0%	14	31.1%	6	27.3%	5	50.0%	17	34.0%	2	14.3%	14	37.8%	6	40.0%	11	35.5%	32	28.1%	1	16.7%
3 1クラス20人以上なら存続すべき。	225	30.1%	113	29.9%	109	8.9%	8	32.0%	12	26.7%	9	40.9%	1	10.0%	17	34.0%	3	21.4%	11	29.7%	3	20.0%	10	32.3%	35	30.7%	3	50.0%
4 クラス替えができる1学年2クラスなら存続すべき。	198	26.5%	116	30.7%	80	6.5%	2	8.0%	11	24.4%	5	22.7%	0	0.0%	9	18.0%	2	14.3%	8	21.6%	4	26.7%	8	25.8%	31	27.2%	2	33.3%
不明	18	2.4%	12	3.2%	6	0.5%	1	4.0%	0	0.0%	1	4.5%	0	0.0%	1	2.0%	1	7.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	1.8%	0	0.0%
合計	747	100%	378	100%	363	30%	25	100%	45	100%	22	100%	10	100%	50	100%	14	100%	37	100%	15	100%	31	100%	114	100%	6	100%

【回答数】一般市民

項目名	合計(みらい平地区+既存地区)		みらい平地区		既存地区																不明							
	票数	%	票数	%	小張小		谷井田小		豊小		三島小		板橋小		東小		谷原小		十和小		福岡小		小絹小		票数	%		
					票数	%	票数	%	票数	%	票数	%	票数	%	票数	%	票数	%	票数	%	票数	%	票数	%				
1 いくら小規模になっても、存続すべき。	147	13.3%	7	6.5%	139	11.3%	10	14.1%	28	12.3%	16	23.2%	13	19.1%	35	17.1%	12	32.4%	5	8.9%	3	12.0%	7	21.9%	10	5.3%	1	7.1%
2 複式学級や1クラス10人以下でなければ存続すべき。	230	20.9%	32	29.6%	198	16.1%	14	19.7%	40	17.5%	18	26.1%	22	32.4%	36	17.6%	7	18.9%	15	26.8%	6	24.0%	6	18.8%	34	17.9%	0	0.0%
3 1クラス20人以上なら存続すべき。	423	38.3%	31	28.7%	387	31.5%	29	40.8%	85	37.3%	27	39.1%	21	30.9%	82	40.0%	13	35.1%	24	42.9%	11	44.0%	12	37.5%	83	43.7%	5	35.7%
4 クラス替えができる1学年2クラスなら存続すべき。	270	24.5%	34	31.5%	234	19.1%	17	23.9%	68	29.8%	8	11.6%	10	14.7%	47	22.9%	4	10.8%	11	19.6%	5	20.0%	6	18.8%	58	30.5%	2	14.3%
不明	33	3.0%	4	3.7%	23	1.9%	1	1.4%	7	3.1%	0	0.0%	2	2.9%	5	2.4%	1	2.7%	1	1.8%	0	0.0%	1	3.1%	5	2.6%	6	42.9%
合計	1,103	100%	108	100%	981	80%	71	100%	228	100%	69	100%	68	100%	205	100%	37	100%	56	100%	25	100%	32	100%	190	100%	14	100%

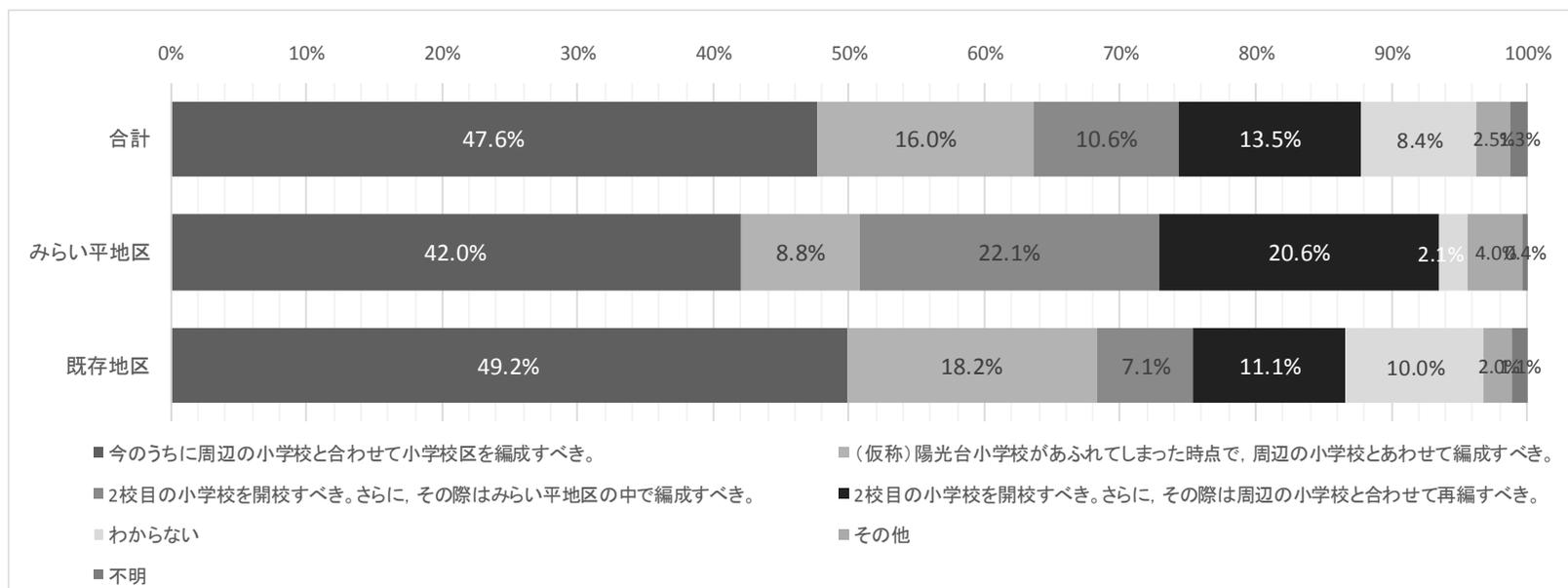
※小学生保護者及び未就学児保護者のみらい平地区の票数については、調査票においてみらい平地区から既存校に通学しているものの数となる。  
一般市民のみらい平地区の票数については、調査票において居住地を「みらい平地区」を選択したものの数となる。

【設問2】 (仮称) 陽光台小学校に、みらい平地区のすべての小学生が通学することとなった場合、将来的に児童があふれてしまう可能性があります。その場合の対策として、あなたは、どのように対応すべきと思いますか。(〇はひとつ)

【回答数】 全回答者 (=小学生保護者+未就学児保護者+一般市民)

項目名	合計(みらい平地区+既存地区)		みらい平地区		既存地区		小張小		谷井田小		豊小		三島小		板橋小		東小		谷原小		十和小		福岡小		小絹小		不明	
	票数	%	票数	%	票数	%	票数	%	票数	%	票数	%	票数	%	票数	%	票数	%	票数	%	票数	%	票数	%	票数	%	票数	%
	1 今のうちに周辺の小学校と合わせて小学校区を編成すべき。	1,621	47.6%	336	42.0%	1,281	49.2%	85	47.2%	207	45.6%	83	49.7%	61	50.4%	261	51.8%	48	56.5%	72	41.9%	46	47.9%	67	59.8%	351	51.6%	4
2 (仮称) 陽光台小学校があふれてしまった時点で、周辺の小学校とあわせて編成すべき。	546	16.0%	70	8.8%	474	18.2%	38	21.1%	94	20.7%	33	19.8%	30	24.8%	87	17.3%	14	16.5%	35	20.3%	17	17.7%	15	13.4%	111	16.3%	2	6.1%
3 2校目の小学校を開校すべき。さらに、その際はみらい平地区の中で編成すべき。	362	10.6%	177	22.1%	184	7.1%	11	6.1%	26	5.7%	11	6.6%	4	3.3%	38	7.5%	5	5.9%	21	12.2%	12	12.5%	10	8.9%	46	6.8%	1	3.0%
4 2校目の小学校を開校すべき。さらに、その際は周辺の小学校と合わせて再編成すべき。	459	13.5%	165	20.6%	289	11.1%	21	11.7%	56	12.3%	19	11.4%	12	9.9%	55	10.9%	5	5.9%	22	12.8%	10	10.4%	9	8.0%	80	11.8%	5	15.2%
5 わからない	287	8.4%	17	2.1%	261	10.0%	14	7.8%	54	11.9%	19	11.4%	11	9.1%	43	8.5%	9	10.6%	17	9.9%	7	7.3%	8	7.1%	79	11.6%	9	27.3%
6 その他	86	2.5%	32	4.0%	53	2.0%	7	3.9%	11	2.4%	2	1.2%	1	0.8%	13	2.6%	2	2.4%	3	1.7%	3	3.1%	2	1.8%	9	1.3%	1	3.0%
不明	43	1.3%	3	0.4%	29	1.1%	4	2.2%	6	1.3%	0	0.0%	2	1.7%	7	1.4%	2	2.4%	2	1.2%	1	1.0%	1	0.9%	4	0.6%	11	33.3%
合計	3,404	100%	800	100%	2,604	100%	180	100%	454	100%	167	100%	121	100%	504	100%	85	100%	172	100%	96	100%	112	100%	680	100%	33	100%

2つの回答を合わせて、「周辺の小学校を合わせて編成(2校目は開校しない)」の意見としてまとめると、63.6%を占めています。



○全回答者の内訳

【回答数】小学生保護者

項目名	合計(みらい平地区+既存地区)		みらい平地区		既存地区		小張小		谷井田小		豊小		三島小		板橋小		東小		谷原小		十和小		福岡小		小絹小		不明	
	票数	%	票数	%	票数	%	票数	%	票数	%	票数	%	票数	%	票数	%	票数	%	票数	%	票数	%	票数	%	票数	%	票数	%
	1 今のうちに周辺の小学校と合わせて小学校区を編成すべき。	826	53.2%	163	51.9%	661	53.9%	44	52.4%	96	53.0%	38	50.0%	22	51.2%	137	55.0%	18	52.9%	38	48.1%	29	51.8%	33	67.3%	206	54.8%	2
2 (仮称)陽光台小学校があふれてしまった時点で、周辺の小学校と合わせて編成すべき。	225	14.5%	31	9.9%	194	15.8%	15	17.9%	30	16.6%	10	13.2%	13	30.2%	34	13.7%	7	20.6%	12	15.2%	8	14.3%	6	12.2%	59	15.7%	0	0.0%
3 2校目の小学校を開校すべき。さらに、その際はみらい平地区の中で編成すべき。	135	8.7%	48	15.3%	87	7.1%	2	2.4%	9	5.0%	9	11.8%	0	0.0%	21	8.4%	2	5.9%	10	12.7%	7	12.5%	2	4.1%	25	6.6%	0	0.0%
4 2校目の小学校を開校すべき。さらに、その際は周辺の小学校と合わせて再編すべき。	148	9.5%	49	15.6%	97	7.9%	7	8.3%	11	6.1%	6	7.9%	3	7.0%	21	8.4%	1	2.9%	7	8.9%	3	5.4%	2	4.1%	36	9.6%	2	15.4%
5 わからない	159	10.2%	8	2.5%	151	12.3%	12	14.3%	32	17.7%	11	14.5%	4	9.3%	26	10.4%	3	8.8%	10	12.7%	5	8.9%	5	10.2%	43	11.4%	0	0.0%
6 その他	39	2.5%	14	4.5%	25	2.0%	3	3.6%	3	1.7%	2	2.6%	0	0.0%	6	2.4%	2	5.9%	0	0.0%	3	5.4%	1	2.0%	5	1.3%	0	0.0%
不明	22	1.4%	1	0.3%	12	1.0%	1	1.2%	0	0.0%	0	0.0%	1	2.3%	4	1.6%	1	2.9%	2	2.5%	1	1.8%	0	0.0%	2	0.5%	9	69.2%
合計	1,554	100%	314	100%	1,227	100%	84	100%	181	100%	76	100%	43	100%	249	100%	34	100%	79	100%	56	100%	49	100%	376	100%	13	100%

【回答数】未就学児保護者

項目名	合計(みらい平地区+既存地区)		みらい平地区		既存地区		小張小		谷井田小		豊小		三島小		板橋小		東小		谷原小		十和小		福岡小		小絹小		不明	
	票数	%	票数	%	票数	%	票数	%	票数	%	票数	%	票数	%	票数	%	票数	%	票数	%	票数	%	票数	%	票数	%	票数	%
	1 今のうちに周辺の小学校と合わせて小学校区を編成すべき。	325	43.5%	134	35.4%	190	52.3%	10	40.0%	22	48.9%	14	63.6%	3	30.0%	29	58.0%	8	57.1%	17	45.9%	5	33.3%	17	54.8%	65	57.0%	1
2 (仮称)陽光台小学校があふれてしまった時点で、周辺の小学校と合わせて編成すべき。	65	8.7%	20	5.3%	44	12.1%	3	12.0%	2	4.4%	4	18.2%	2	20.0%	9	18.0%	2	14.3%	7	18.9%	4	26.7%	3	9.7%	8	7.0%	1	16.7%
3 2校目の小学校を開校すべき。さらに、その際はみらい平地区の中で編成すべき。	154	20.6%	116	30.7%	38	10.5%	4	16.0%	4	8.9%	0	0.0%	1	10.0%	3	6.0%	0	0.0%	5	13.5%	3	20.0%	7	22.6%	11	9.6%	0	0.0%
4 2校目の小学校を開校すべき。さらに、その際は周辺の小学校と合わせて再編すべき。	144	19.3%	88	23.3%	55	15.2%	8	32.0%	10	22.2%	2	9.1%	3	30.0%	6	12.0%	2	14.3%	5	13.5%	2	13.3%	1	3.2%	16	14.0%	1	16.7%
5 わからない	36	4.8%	4	1.1%	29	8.0%	0	0.0%	5	11.1%	2	9.1%	1	10.0%	2	4.0%	1	7.1%	2	5.4%	1	6.7%	1	3.2%	14	12.3%	3	50.0%
6 その他	20	2.7%	16	4.2%	4	1.1%	0	0.0%	1	2.2%	0	0.0%	0	0.0%	1	2.0%	0	0.0%	1	2.7%	0	0.0%	1	3.2%	0	0.0%	0	0.0%
不明	3	0.4%	0	0.0%	3	0.8%	0	0.0%	1	2.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	7.1%	0	0.0%	0	0.0%	1	3.2%	0	0.0%	0	0.0%
合計	747	100%	378	100%	363	100%	25	100%	45	100%	22	100%	10	100%	50	100%	14	100%	37	100%	15	100%	31	100%	114	100%	6	100%

みらい平地区の未就学児の保護者は、2つの回答をあわせて2校目の開校を望む意見としてまとめると、50%以上となります。

【回答数】一般市民

項目名	合計(みらい平地区+既存地区)		みらい平地区		既存地区		小張小		谷井田小		豊小		三島小		板橋小		東小		谷原小		十和小		福岡小		小絹小		不明	
	票数	%	票数	%	票数	%	票数	%	票数	%	票数	%	票数	%	票数	%	票数	%	票数	%	票数	%	票数	%	票数	%	票数	%
	1 今のうちに周辺の小学校と合わせて小学校区を編成すべき。	470	42.6%	39	36.1%	430	43.8%	31	43.7%	89	39.0%	31	44.9%	36	52.9%	95	46.3%	22	59.5%	17	30.4%	12	48.0%	17	53.1%	80	42.1%	1
2 (仮称)陽光台小学校があふれてしまった時点で、周辺の小学校と合わせて編成すべき。	256	23.2%	19	17.6%	236	24.1%	20	28.2%	62	27.2%	19	27.5%	15	22.1%	44	21.5%	5	13.5%	16	28.6%	5	20.0%	6	18.8%	44	23.2%	1	7.1%
3 2校目の小学校を開校すべき。さらに、その際はみらい平地区の中で編成すべき。	73	6.6%	13	12.0%	59	6.0%	5	7.0%	13	5.7%	2	2.9%	3	4.4%	14	6.8%	3	8.1%	6	10.7%	2	8.0%	1	3.1%	10	5.3%	1	7.1%
4 2校目の小学校を開校すべき。さらに、その際は周辺の小学校と合わせて再編すべき。	167	15.1%	28	25.9%	137	14.0%	6	8.5%	35	15.4%	11	15.9%	6	8.8%	28	13.7%	2	5.4%	10	17.9%	5	20.0%	6	18.8%	28	14.7%	2	14.3%
5 わからない	92	8.3%	5	4.6%	81	8.3%	2	2.8%	17	7.5%	6	8.7%	6	8.8%	15	7.3%	5	13.5%	5	8.9%	1	4.0%	2	6.3%	22	11.6%	6	42.9%
6 その他	27	2.4%	2	1.9%	24	2.4%	4	5.6%	7	3.1%	0	0.0%	1	1.5%	6	2.9%	0	0.0%	2	3.6%	0	0.0%	0	0.0%	4	2.1%	1	7.1%
不明	18	1.6%	2	1.9%	14	1.4%	3	4.2%	5	2.2%	0	0.0%	1	1.5%	3	1.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	1.1%	2	14.3%
合計	1,103	100%	108	100%	981	100%	71	100%	228	100%	69	100%	68	100%	205	100%	37	100%	56	100%	25	100%	32	100%	190	100%	14	100%

※小学生保護者及び未就学児保護者のみらい平地区の票数については、調査票においてみらい平地区から既存校に通学しているものの数となる。

一般市民のみらい平地区の票数については、調査票において居住地を「みらい平地区」を選択したものの数となる。

